

Eureka V

六年制通信 No.23

平成 29 年 11 月 11 日 (土) 号

四隅の時間

倉田卓次の『裁判官の書斎』を以前紹介しましたが、その中に倉田さんが本を読む時間をどのように捻出しているかについて面白い記述があります。倉田さんは語学にも長けていて、英語独語仏語が読めるのですが、なかなかまとまった時間が取れないのですね。もちろん学生時代に膨大な数の本を読んでいらっしゃいます。その頃の蓄積はあるとしても、例えば翻訳の誤訳に関しての刺激的なエッセイなどは、やはりまとまった時間がないと書けないと言っています。しかし、それでも読むことだけなら、日常にある細切れの時間を活用すればいい、いや忙しい人はそうするしかないと書いてあります。その細切れの時間を、倉田さんは「四隅の時間」と呼んでいます。面白いし、いい表現ですね。四角い箱に何か物をぎっしり詰めようとしても、たいていは四隅に隙間ができるものだ、それは私たちの一日でも同じで、24時間をぎっしり有効活用しようとしても隙間の時間というのが必ずできる。そこを粘り強く使っていく、というのです。また、場所の限定についても触れています。一日をよく点検すると、同じ場所で同じことをしていることが多いから、四隅の時間も同じ場所で発生しているはずである。したがって、その場所で読む本を決めて実行すればいい。そういう理屈になるわけですね。

私が一番感心したのは聖書を3年かけて読んだという話です。トイレで読んだらしいのですが、聖書を読む場所としては相応しくないとご本人も反省されています。それでも読まないよりはいいかと実行されたとのこと。

聖書は、例えば「創世記」とか「出エジプト記」とか名前がついている「Book=書」が集まってできています。旧約には38書と詩編があります。新約は「マタイ伝福音書」から「ヨハネの黙示録」まで27書です。それぞれの「書」には「章」が設けられていて、「創世記」は50章、「マタイ伝福音書」なら28章とか、短いものになると1書に1章しかないものもあります。手元にある文語訳の聖書で章の数を確認すると、旧約に779章と詩編が150篇、新約には260章、合わせて1189あります。これを一日1章の割合で読んでいくと、およそ3年3か月かかります。これを、えっ、そんなにかかるのか、やめた、とは考えず、3年3か月で読めるではないか、と考えるのが偉いわけです。倉田さんは一日1章を実行したのですね。ちなみにページ数で考えると、旧約が1220頁、新約が390頁、合計1610頁です。一年で読もうとすれば、一日4.4頁で達成です。私の学生時代でも、新約だけは読んだという人はけっこういましたが、旧約からすべてを読んだというのは、ほとんどいませんでした。君たち、やってみま

せんか。一日4ページ半読めば、一年で読了できますよ。

さて、前に紹介した糸川英夫さんに『驚異の時間活用法』という本があります。ここでも隙間の時間を無駄にするなど書いてあります。糸川さんはこれを「切れはしの時間」と呼んでいます。が、「四隅の時間」と同じことです。このへんの表現に文系の倉田さんと理系の糸川さんの違いがあるような気がするなあ。

糸川さんは新幹線や飛行機の座席、待合室や車の中でも原稿を書くと言います。時間を無駄にしないということですが、彼が強調していることは、切れはしの時間に何をすべきかということではなく、その一見無駄に過ぎていく時間に対し無頓着であってはならないという心の持ち方です。仮に1万円を落としたとしても、そのお金は取り戻せるが、過ぎ去った時間だけは誰も取り戻せない。たかが10分や15分と思っただけでも、これを絶対に無駄にしないという決意から私たちの時間活用への挑戦が始まる。そう書いています。

私は倉田さんや糸川さんに、概ね賛成ですが、5分10分15分といった時間を活用するのは本当に難しいことだと思っています。一刻もムダにしてはいけないと、あまり深刻に捉えすぎると、精神衛生上よくないとも思います。例えば、君たちが授業の合間の10分間を「絶対に無駄にしちゃいけない」とばかりに、全員が机にしがみついて勉強しているような光景を、私は健全とは思えない。倉田さんや糸川さんの世界は大人の世界です。ビジネスマンと君たちでは時間の使い方は違います。ただ、大人になれば、時間の活用はもっと切実な問題になるのだと理解できればいいでしょう。

無駄な時間という点では、ひょっとしたら授業自体が無駄に思えることがありますよね。授業は切れはしの時間ではないはずですが、勉強する内容が君たちにとって、必要なかどうかわからないということが。でも、その結論は大人になったらわかります。私は今、数学の知識など一切使っていませんし、学校で習ったことはほとんど忘れましたが、高校では理系で「大学への数学」などを解いていました。あの時間は無駄だったのか、今の私は、はっきりと決して無駄ではなかったと断言できます。

さて、糸川さんが時間の有効活用にも最も大切なこととして挙げているのが、実は睡眠です。多くの方が意外に見落としをしているとして、熟睡することの大切さを説いています。美味しい食事と睡眠なら圧倒的に睡眠の方が優先されるとも言っています。確かに、その通りですね。これには私は諸手を挙げて賛成です。

今週のおすすめ

・重松清 『きみの友だち』(新潮文庫)

『ビタミンF』で直木賞を受賞して以来、私も重松さんの本を何冊か(わりと熱心に)読みました。おそらく現在の作家で子供の世界をこれほど巧みに書く人はいないのではないかと思います。『きみの友だち』はその中でも秀作ですね。連作短編で、最後に物語の語り部も明かされますが、松葉杖の少女を中心に、友だちとは何か、目に見えない「みんな」とは何かを考えさせられます。生徒諸君だけでなく、保護者の皆さんもぜひご一読ください。